



IEC活動推進会議議長就任にあたって

日本電気株式会社 望月 康則

5月28日に開催されました第28回IEC活動推進会議(IEC-APC)総会で、ご指名・ご承認を頂き、2018年度のIEC-APC議長に就任致しました望月 康則でございます。この1年間、議長として皆様と共にIEC標準化推進活動に参画させて頂けることを誠に光栄に思っております。

私自身は、3年前に、IEC活動として、“IoT2020: Smart and secure IoT platform”MSBプロジェクトに国際エキスパートとして参画させて頂きました。上述のプロジェクトにおきましては、従来のIoTプラットフォームに欠けている特性と要件、次世代プラットフォームに必要な特性と要件、市場動向の調査、関連する重要技術の特定や考察を行った上で、今後必要となる標準化アイテムにつきまして、この分野におけるグローバルなリーディングカンパニーの皆様と議論させて頂きました。これまでのIECにおける活動から見れば随分と異色で、変わりつつあるIECの姿を実感致しました。ここ数年のうちに、AI(人工知能)、センシングに関する技術やデータ流通、利活用に関する議論は、益々活発化し、Society5.0、超スマート社会を実現に向けての産官学の取り組みが、多くの皆様にも、身近に感じられるようになってきているのではないのでしょうか。

IoT、サイバーフィジカルシステム(CPS)の世界におきましては、サービスを実現する上で要となるプラットフォーム層に特化した、或いは周辺領域に限定した標準化の議論に留まっていたり、社会基盤としてのIoT、CPSを普及させるには不十分であると実感しています。ユースケースの検討をベースに、様々なレイヤー(例えば、デバイス層、ネットワーク層、アプリケーション層等)を俯瞰した上で、目指すサービスを実現する為には何が欠けているかを吟味することが益々、重要になるのではないのでしょうか。そういった意味では、これまでIECが取り組んできた、各種IoT機器、部品等の安全性、機器間の相互接続性を担保する為の標準化といった活動は、今後、その重要性は更に増加し、新たなデバイスを積極的に取り込んでいくことも期待されています。IECで行われている様々な活動は、私たちが暮らす社会の様々な側面で、多大なる貢献、役割を、今後とも担っていくと信じています。是非とも、皆様と一緒にIEC活動を盛り立てていきたいと思っております。

IEC-APCにおきましては、セミナー・研修等を通じ、今後の国際標準化活動を担っていく若手を含めての人材育成・普及啓蒙にも力を入れていきます。会員企業の皆様におかれましては、是非とも、効果的なご活用を検討頂けると幸いです。これからの1年間、皆様のご支援を頂き、IEC-APCを通じて日本の国際競争力向上に繋がるよう、微力ながら務めて参ります。引き続き、ご指導、ご鞭撻の程、何卒、よろしくお願い申し上げます。

以上